

建設今昔譚——中央大学土木工学科出身者座談会

登壇者

【1982年卒業】

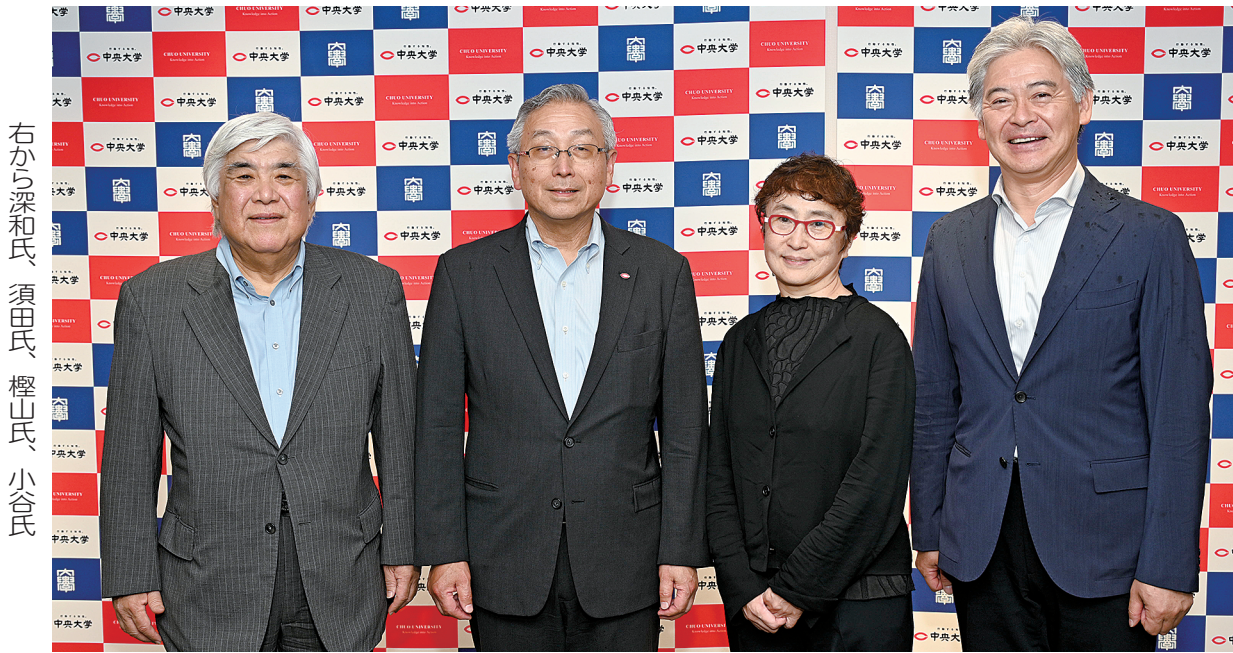
檜山 和男氏：中央大学副学長／A I・データサイエンスセンター所長／理工学術院教授

小谷 裕司氏：E・Jホールディングス社長

須田久美子氏：建設産業女性定着支援ネットワーク幹事長

【1992年卒業】

深和 岳人氏：防衛省中国四国防衛局長



右から深和氏、須田氏、檜山氏、小谷氏

学生時代に土木を学んだ人たちが、若い頃に何を思い、今の活動などを語り合う「建設今昔譚」。今回、中央大学理工学部土木工学科（現社会理工学部都市環境学科）の出身者4人による座談会を行い、それぞれの経験を披露しながら、建設産業の担い手である若い人たちにメッセージを贈ってもらった。登壇者は、同大の檜山和男副学長、E・Jホールディングスの小谷裕司社長、建設産業女性定着支援ネットワークの須田久美子幹事長の同期3人と、10年後輩に当たる防衛省の深和岳人中国四国防衛局長。

若者たちに贈るメッセージ

——土木を選び、中央大学に進学した経緯をそれぞれ聞かされた。

檜山 1982年に中央大学理工学部土木工学科（現社会理工学部都市環境学科）を卒業しました。小谷さん、須田さんと同期です。父が水道工事業を営んでいたため、子どもの頃から土木分野に興味を持っていました。神田駿河台に生まれ、地元の中大を身近に感じていたため、自然と中大への進学を考えました。

小谷 第一志望の医学科に進むことができた。八雲建設コンサルタント（現エイト日本技術開発）を創業した父親と同じ土木の道に進むことになりました。中大には当時、河川学の大家である林泰造先生がいて、直接指導を受け、自分を伸ばしたいと考えました。檜山さん、須田さんをはじめ、良い仲間と巡り会ったこともできました。

須田 高校の時に理系の科目が面白く、大きな夢を抱いていたと考え、土木の道に進みました。中大のバンフレットに、アーチ式ダムのかげりな写真が掲載されていた。この大学の土木工学科に入れば、ダムが造れる。そんな単純な理由から受験しました。当時は土木を学ぶ女性が少なく、同期には、私も1人しかいませんでした。

深和 先輩たちの10年後の92年に卒業し、修士課程を経て、当時の防衛施設庁（現防衛省）に入りました。父親が橋梁エンジニアで、レインボープリッジの芝浦ループ橋（東京都港区）の現場所長などをしていました。高校の進路指導室で見た中大のパンフレットに瀬戸大橋の写真が掲載されていたのが印象に残っています。父親と同じ土木を志し、縁あって中央大学に進学しました。

——実社会で感じたギャップや、苦労話などを披露いただければ。

小谷 先生の紹介で建設コンサルタント会社に就職しました。最初の指示がダムの三面図を描くことでした。描き方も分からず、先輩に教えてもらいながら、苦労して図面を描き上げました。ところが上司に赤ペンでバツンを付けられたことは、今も忘れられません。また、土木研究所への出向を命じられ、河

川研究室で氾濫しそうな河川の現地調査に赴くなど、さまざまな経験をしました。振り返れば、多くの方と付き合い、120%の努力で取り組んできたことが、今の自分を作っているのだと思います。若い頃に多くの経験や苦労を重ねたことで、何が正しいかを判断できるようになったと感じています。

須田 学生時代、先生の紹介でアルバイトした現場の仕事が天職だと思いました。就職した鹿島で配属されたのは技術研究所でした。最初に与えられた仕事は、10分の1の模型で構造実験を行うために利用する直径3mmの異形鉄筋を作ることでした。町工場の工場長に相談するなど、苦労を重ねて実現しました。これがきっかけとなって、入社から25年を経て念願の現場に配属されることになりました。この間、2人の子も育てながら仕事をした経験が、保育園の先生やPTAの皆さんに現場を見てもらう機会につながり、公共事業に理解いただくことができました。

檜山 入庁2年目に海上自衛隊／米海軍厚木基地へ配属され、滑走路の建設などに携わりました。施工者の建設会社や設計コンサルタントの方から多くのことを学びました。現場で打ち合わせした内容が目の前で見られることに、大きなやりがいを感じました。詳しくは話せませんが、その後の業務で図らずも周囲に大変な迷惑を掛けてしまい、自分自身もつらい場面に出

面する事象が発生しました。その時、ありがたかったのは仲間との存在でした。かつて恩師から言われた「正しいと思ったことなら5年間言い続ける」という教えを実践したことで多くの人間にも恵まれ、結果的に良い方向に進めることができました。

檜山 私の場合、当初思い描いていた進路と、実際に選んだ道との間に大きなギャップがありました。父の後を継ぎ、事業をさらに発展させたいという思いで土木を学んでいました。しかし、大学3年の終わり頃、パーソナルコンピューターが登場し始め、これぞ世の中が変わるのではないかと直感しました。計算力学の分野に魅力を感じ、大学院に進み、研究者の道を選びました。結果として、父の期待とは異なる道を選ぶことになりました。同窓生をはじめ、多くの方々との交流が産学官連携へと発展し、小谷さんの会社や深和さんの組織との共同研究にもつながりました。

檜山 先ほどの須田さんのお話にもあった通り、私たちの時代は定員150人に対して女性が2人しかいませんでした。現在の定員は90人で、その約3分の1が女性です。女性学生が社会に出て、長く活躍できるよう、産学官が連携し、受け皿を整えていかなければならないでしょう。卒業生から、結婚を機に退職したと聞くこともありますが、誰もが長く働き続けたいと思える、魅力ある業界となることを期待しています。大学でも女性教員を意識的に増やそうとしています。教育の在り方について言うと、昨今のA Iの進歩を考慮する必要があります。レポートを作成する際にも、どの部分でA Iを利用したのかなど、作成プロセスを明確にするよう指導しています。今後は、レポートに代えて口頭試問を行うことも検討しています。

小谷 過度に生産性向上や働き方改革が進んだことで業務が細分化し、本質が分からなくなっていると感じます。乗り越えなければならぬ事象が生じた時、解決するべきが分からず、やりがいが感じられなくなることを心

土木は幅広く奥深く魅力的——とことん働き、多くの経験



須田 鹿島では99年改正雇用機会均等法後に女性の定期採用が始まりました。元請の女性が増えれば、現場も変わっていくと思いました。技能者の中にも、建設の世界に憧れて飛び込んでくる女性たちがいて、現場に従事する中で、若手の指導にも熱心な女性のベテラン鉄筋工や、地盤改良工の女性職長に出会いました。数は少ないけれど、女性にも現場の仕事はできると思

——建設産業で直面する大きな課題は人手不足です。人材を生かす上でのお考えがありますか。——

深和 戦後最も厳しい安全保障環境にあつて防衛施設整備の予算が4.5倍に拡大し、限られた人員の中で効率的に執行することが求められています。その中で、行き過ぎたコンプライアンスやワークライフバランスが、若い人たちのモチベーションを奪っているのではないかと危惧しています。稲盛和夫さんの言葉を借りれば、仕事は「能力×情熱×考え」で評価されます。能力ややる気があっても、考え方がネガティブでは、仕事の成果はマイナスとなります。普段の業務でも「考え方」の部分を意識して部下と接しています。

小谷 過度に生産性向上や働き方改革が進んだことで業務が細分化し、本質が分からなくなっていると感じます。乗り越えなければならぬ事象が生じた時、解決するべきが分からず、やりがいが感じられなくなることを心

——建設産業で直面する大きな課題は人手不足です。人材を生かす上でのお考えがありますか。——

深和 戦後最も厳しい安全保障環境にあつて防衛施設整備の予算が4.5倍に拡大し、限られた人員の中で効率的に執行することが求められています。その中で、行き過ぎたコンプライアンスやワークライフバランスが、若い人たちのモチベーションを奪っているのではないかと危惧しています。稲盛和夫さんの言葉を借りれば、仕事は「能力×情熱×考え」で評価されます。能力ややる気があっても、考え方がネガティブでは、仕事の成果はマイナスとなります。普段の業務でも「考え方」の部分を意識して部下と接しています。

小谷 過度に生産性向上や働き方改革が進んだことで業務が細分化し、本質が分からなくなっていると感じます。乗り越えなければならぬ事象が生じた時、解決するべきが分からず、やりがいが感じられなくなることを心

——建設産業で直面する大きな課題は人手不足です。人材を生かす上でのお考えがありますか。——

深和 戦後最も厳しい安全保障環境にあつて防衛施設整備の予算が4.5倍に拡大し、限られた人員の中で効率的に執行することが求められています。その中で、行き過ぎたコンプライアンスやワークライフバランスが、若い人たちのモチベーションを奪っているのではないかと危惧しています。稲盛和夫さんの言葉を借りれば、仕事は「能力×情熱×考え」で評価されます。能力ややる気があっても、考え方がネガティブでは、仕事の成果はマイナスとなります。普段の業務でも「考え方」の部分を意識して部下と接しています。

——建設産業で直面する大きな課題は人手不足です。人材を生かす上でのお考えがありますか。——

深和 戦後最も厳しい安全保障環境にあつて防衛施設整備の予算が4.5倍に拡大し、限られた人員の中で効率的に執行することが求められています。その中で、行き過ぎたコンプライアンスやワークライフバランスが、若い人たちのモチベーションを奪っているのではないかと危惧しています。稲盛和夫さんの言葉を借りれば、仕事は「能力×情熱×考え」で評価されます。能力ややる気があっても、考え方がネガティブでは、仕事の成果はマイナスとなります。普段の業務でも「考え方」の部分を意識して部下と接しています。

人生無駄なことは何もない——チャレンジと失敗の積み重ねを

須田 一度きりの人生、思いっきりチャレンジしてほしいです。人生に無駄なことは何もありません。仕事だけでなく、結婚、子育て、親を大事にする（ことなど）、プライベートも含め、そのつとめから、柔軟な動き方が当たり前に入れているようにするのがいいのではないのでしょうか。

檜山 われわれが学生の頃は、土木といえば社会基盤などのハード整備が中心でした。現在は、そこに情報技術や社会システム

の視点加わり、まっくわい、社会つくりへと領域が広がっています。都市基盤の上にはさまざまな情報が融合し、より豊かで安全な社会を形づくっています。土木はあらゆる分野に関わる、幅広く奥深い魅力的な分野です。好奇心を大切に、志を持って学んでほしいと思います。

——今日はありがとうございました。——

今年4月に「社会理工学部」が発足 より良い社会へ学際的人材養成

2026年4月、理工学部を再編し、基幹理工学部・社会理工学部・先進理工学部が誕生しました。

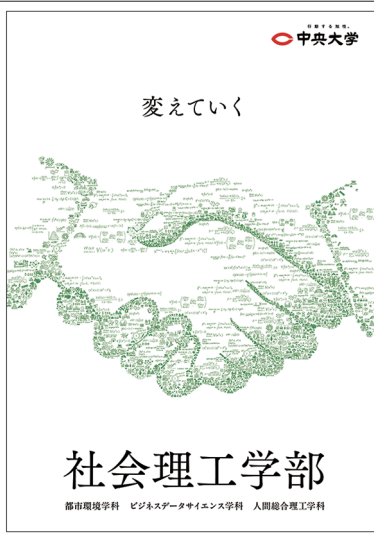
社会理工学部は、都市環境学科、ビジネスデータサイエンス学科、人間総合理工学科から構成され、政策や意思の決定、

生活環境や制度のデザインや評価、集団における合意形成、組織における問題解決など、社会経済活動そのものを対象とする分野を教育研究の対象としています。

〈人材育成〉

科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様な複雑な課題に対してそれらを応用し、より良い社会の実現に資する学際的人材を養成します。

社会理工学部には現在、1年次の学生276人（定員280人）が在籍している（5月1日時点）。学科別の内訳は、都市環境学科が87人（①男子59人②女子28人）、ビジネスデータサイエンス学科が114人（①82人②32人）、人間総合理工学科が75人（①39人②36人）となっており、後楽園キャンパス（東京都文京区）で学生生活を送っています。



社会理工学部

都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科



E・Jホールディングス
コーポレートサイト



価値ある環境を未来に
E・Jホールディングス株式会社



行動する知性。
中央大学



社会理工学部サイト